教育目標　「学ぶ心　自主の心　思いやりの心」
校　　訓　「勤労　自主　誠実」

学校だより

令和８年１１月１０日
八王子市立元八王子中学校
校長　東内竜吾
http://hachioji-school.ed.jp/mthtj/

らしさ

校長　東内竜吾

１年というドラマも、いよいよ最終章を①ムかえようとしています。歳月の流れるスピードがあまりにも早く、気がつけばカレンダーも残すところわずか１枚とちょっとです。

さて、学校も、まさに「怒涛のクライマック」を迎えます。三者（二者）面談に期末考査と、生徒の皆様にとっては「ドラマチック」というより、「緊張感のある」ことが続く時期かもしれません。

期末考査や年末に冷や汗をかくような展開があるかもしれません。しかし、ご安心ください。どんな人生にも、ハラハラする展開や壁にぶつかるシーンはつきものです。すべてが②ジュンプウ満帆な人はいません。失敗や葛藤、そしてそこから懸命に立ち上がろうとするひたむきな姿こそが、人を一番成長させてくれます。

今までのテストの結果や面談での言葉は、これまで来た道のりを振り返り、これからの「次の章」をどう描くかを語り合うための大切なプロットです。どうぞご家庭でも、「次はどんな展開にしようか」とお子様と一緒に前向きなシナリオを③ネってください。

さて、先日、八王子市の中学生が一堂に会しての駅伝大会が開催されました。本校からも、代表選手が出場しました。とても頼もしく、輝いていました。

駅伝は、日本で生まれ、④ハグクまれてきたスポーツです。そして、駅伝のランナーが胸につけている一本の「タスキ」。あれはただの布ではありません。自分の区間を全力で走り切って、次の走者に渡します。一見すると、それぞれのランナーが個々の「点」として走っているように見えます。でも、その「点」と「点」がタスキによってつながった瞬間、チーム全員で書く一本の美しい「線」になります。この一本の「タスキ」を繋ぐ姿は、まさに私たちが歩む、人生や学校生活そのものではないでしょうか。

アップルの⑤ソウギョウシャ、スティーブ・ジョブズは昔、「人生の点と点は、後から振り返ったときにしか繋がらない。」と言ったそうです。

生徒の皆さんの学校生活。終わらない授業やテスト勉強、部活動の練習、友達との雑談、時には失敗して落ち込む時間。その一つ一つは、一見バラバラな「点」に見えるかもしれません。「これ、将来なんの意味があるんだろう」って思うこともあるはずです。

でも、その点は、絶対に無駄にはなりません。駅伝のランナーが走り続けるように、みんなが今日、この場所で重ねる一生懸命な「点」は未来の自分に必ず繋がっていきます。そして気づいたとき、自分だけの、誰もまねのできない素敵な「一本の線」＝「人生」になっているはずです。今日という「点」を大切に紡いでいってほしいと願っています。

①迎え②順風③結って④育まれて⑤創業者

行ってきました修学旅行　令和8年10月6日～8日

生徒の皆様にとって驚きと感動に満ちた数日間となりました。

流れる車窓から富士山を眺めては新幹線の中で心を弾ませ、歴史の重みを肌で感じながらその壮大さに圧倒された寺院や街並み。

そして、人懐っこく近寄ってくる鹿たちに歓声を上げる姿など、見るもの触るものすべてが新鮮で、生徒たちは終始心が躍っていました。



しかし、今回の旅行で得た最も大きなものは、旅先の風景だけではありません。部屋で過ごした時間、班行動で協力しあった道のりの中で、「初めて気づいた友達のいいところ」がたくさんありました。仲間と心を通わせたこの経験は、生徒の皆様をまた一歩。たくましく成長させてくれたと感じています。この旅行で得た学びと絆を大切にしてください。



元八王子の体育館で学校全体が一体となった最高の瞬間でした。本番（令和８年10月24日）至るまで、互いの思いやり、支え合いながら築き上げてきた温かな空間から、確かな「元八愛」を感じ取ることができました。当日は、特に後輩たちの良きお手本となり、最高の合唱を響かせてくれた３年生の姿には感動しました。３年生の真摯な姿勢と、仲間を信じ抜く力こそが感動を生み出した源であり、皆様にとってかけがえのない宝物です。この日の熱と感動を、ずっと心に留め置いてほしいと願っています。

中学校駅伝競走大会

令和８年１１月１日（日）、上柚木公園陸上競技場で行われました。当日は少し気温が高かったかもしれませんが、天気に恵まれ、すがすがしい中学生たちが襷を繋ぎました。走者から走者への襷はもちろんですが、この伝統は、確実に後輩達へと襷は受け継がれていきます。代表選手の皆さんありがとうございました。

お知らせ　クリーン作戦＆収穫祭が11月14日（土）八王子市青少年対策元八王子地区委員会の皆様の主催で行われる予定です。